

Save The Tropical Forests



森の通信

2011.12.13



▲ タンジュンハラペン村の苗づくりグループとFNPFバスキさん等とウータン武田さん、Telapak アレックスさんとの記念写真。

CONTENTS

- people ②③ タンジュンハラペン村の人達…… 3P
- 世界の森林ニュース…… 12P
- 集会報告 10.16 大阪…… 4P
- 新聞記事…… 13P
- FNPF バスキさん
- 17ノ・ウイビノさん
- Book 紹介…… 15P
- 初めてのタンジュンハラペン村…… 10P
- 武田 裕希子

2011.12.13

8月29日、東カリマンタンの州都サマリダの木材工場に行く。1991年川沿いにずらっとあった木材工場は見る影もなくなる。マハカム川に見られた多くの木材を運ぶバージ船も全く見られない。

「以前はすごい賑わいの木材の街だったが、ひっそりしすぎや。工場がなくなった？」と、この街に最近、訪問した事がある藤原さんに聞く。彼女は「詳しく知らないけど、あまり木材を見かけない」と。

まずカリマニス・グループの工場を訪問。工場は操業していない。管理者らしき人がいて尋ねる。

「2001年にBob ハッサンが逮捕され、この工場も03年から操業できず、閉鎖せざるを得なくなった。まずそれで資金がなくなり、新規の伐採権が2005年以降も発給されず、休業から閉鎖となった」と彼。

私は「なぜ今もこの工場の管理しているの？」と聞く。閉鎖したら誰も人がいなくなるから。

「今は香港の企業が、この工場跡か敷地かを買収するからだ」とマネージャー。

閉鎖の内部の写真を撮らせてもらい、次のカユラピス Group の工場へ行く。

「ん、ここも Bob ハッサン氏の資金がなくなり、新規伐採権を手に入れられず、労働者にも賃金を払えず、2003年過ぎにやむなく休業。違う会社に工場の一部を売った。関連の Barito Pacific (バリト・パシフィック) グループも2005年から東カリマンタンで新規伐採権をえられず、操業停止さ。

多くの木材企業は、新規の伐採権を2005年以降あまりもらえていない。森に木がなくなってきたからだろう。それで資金がなくなり、労働者も解雇せざるを得ない。Sumalindo Lestari (スマリンド・レスタリ) くらいが操業している。このサマリダで操業は、現在2社だけ」と管理者が言う。

Pt. Sumalindo Lestari 社を見に行く。前川さんは裏の堀から写真を撮る。「木材は見るからに小径木が多いですね」と彼が言う。「合板にするのに7cmぐらいまでに出来ると聞いたが、木材があまり手に出来ないからか、、、2009年にこの会社も違法伐採して、現場の責任者が逮捕されたし、、、」と私。

インドネシア語の通訳をしてくれた藤原さん、同行の前川さんとコーヒーを飲みながら話す。

「多くの伐採権をスハルト政権下で与えず、その後違法伐採をし過ぎて、森が激減した。だから東カリマンタンでもそのツケで工場がなくなった。国際森林年に暗くて、明るいニュースだね」と。

[ by. 西岡良夫 ]

## 【ウータン活動報告】

- 2011・9・13 【国際森林年イベント・世界の熱帯林を守れ! 温暖化防止を!】にむけ、ウータン会議
- 9・19-26 タンジュン・ブティン公園植林調査等 \* 石崎、武田
- 9・24 【国際森林年イベント Part1】講演\* 三柴淳一 (FoE Japan 事務局長)、西岡良夫 (ウータン)  
「Stop! 違法伐採・密輸材取引〜だいじょうぶ? ボルネオ島の合法材」
- 9・27 【国際森林年イベント】にむけ、ウータン会議
- 9・28 「通信ウータン 102 号」発刊
- 10・6 【国際森林年イベント】インドネシア・ゲスト講演ツアーの最終打合せ
- 10・16 【国際森林年 Part2】「オランウータンを守れ! 泥炭湿地の保全を」大阪集会 主催・ウータン  
講演\* バスキ・ブデイ・サントソ (FNPF) 氏、I・ウイビソノ (通称ヨヨ、Wetlands Inter インドネシア) 氏
- 10・17 「オランウータンを守れ! 泥炭湿地の保全を」京都集会 \* 講演・バスキ、ヨヨ氏
- 10・20 「熱帯林を守れ! Save オランウータン、村落林保護、泥炭湿地保全を」静岡集会 \* 講演・バスキ、ヨヨ、ザイヌリ・ハシム (Mitra Insani 財団) 氏 \* 主催・JATAN 静岡、ウータン、JATAN ほか
- 10・21 「インドネシア熱帯林保全に向けて」東京集会 \* 講演・バスキ、ヨヨ、ザイヌリ・ハシム氏ほか、  
原田、三柴、西岡、川上他 主催\* JATAN、ウータン、RAN Japan、FoE Japan、メン・ウオッチ
- 10・25 泉北高校で石崎、高阪が講演

# People(23) save! the World's Forests

—Save Our Land! Stop Climate Change in the World! —

村の土地を破壊の違法アブラヤシ企業Pt. BLPに抗議のTanjung Harapan村の人達



違法アブラヤシ農園の水路を塞ぐ人々 (写真/byFriends of National Parks Foundation)

「インドネシアの泥炭湿地は巨大で、違法伐採、乾燥により泥炭湿地が破壊されCO2は6億トン、火災により14億トン。インドネシアは世界3位のCO2排出国。アブラヤシ開発は泥炭地の水位を下げ、CO2排出をさらに進める主原因の1つ。泥炭地を再湿潤化するためには、運河を堰き止め、そこを植林する」と今回招聘したWetlands Interインドネシア・プログラムのYoyok氏が指摘。招聘のFreinds of National Parks Foundation(FNPF)のBasuki(バスキ)氏も「アブラヤシ農園は我々の村の森を違法に破壊した」と。

写真は2011年夏、タンジュン・プティン公園外の出来事。アブラヤシ農園の水路を塞いだ。「村の土地に勝手な水路の建設は違法。私達の村で以前違法伐採に従事していたが、今は違う。森を再生させねばならない」と村のリーダーの1人のHadoran氏。このアブラヤシ企業は村の森を壊し、我慢できない。森の再生に希望を見出したから」とアルバイン氏も言う。

## 国際森林年イベント

### 「世界の熱帯林を守れ！温暖化防止を！」

今年は、国際森林年であり、森林を未来に残すため、森林の持続可能な森林経営、保全、持続可能な開発などについて、認識を高めるよう努力すべきとされています。

そのような中で、ウータンでは国際森林年のイベントとして、インドネシアから Friends of National Park Foundation (以下 FNPF) の Basuki Budi Santoso (バスキ) 氏と Wetlands International の Iwan Tri Cahyo Wibisono (ヨヨ) 氏を招いて、以下の日程と場所で講演をしていただきました。

- 10月16日(日) 大阪集会 ドーンセンター
- 10月17日(月) 京都集会 ひと・まち交流館
- 10月20日(木) 静岡集会 アイセル21
- 10月21日(金) 東京集会 早稲田奉仕園

講演の内容を以下にまとめさせていただきました。(by Kazuya Mihara)

### 《タンジュン・プティン国立公園での再植林、オランウータンの保護、村おこしへ》 ～小さな規模で大きな成果を～

Friends of National Parks Foundation(FNPF) Forest Manager バスキ氏

#### タンジュン・プティン国立公園の概要・現状・問題

FNPF は主にタンジュン・プティン国立公園(以下 TP 公園)の保護地区で、地域の人々とともに活動をしています。保護林への脅威として、違法伐採や火災などが挙げられます。2004 年には、違法伐採は止められましたが、すでに保護林の 70%以上が天然林でも、原生林でもない状態となっています。そして、毎年、火災が起こっています。周辺では、違法採掘も行われており、その地域周辺では、違法なアブラヤシ開発が続けられています。

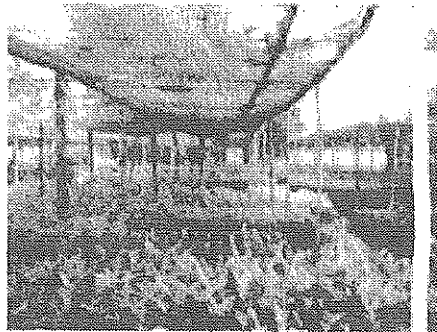
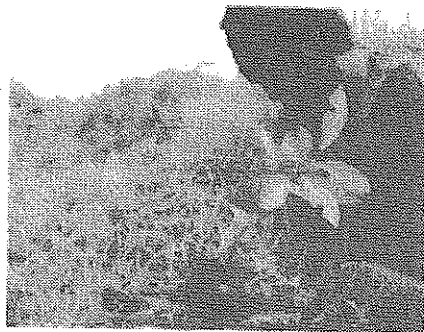
TP 公園には、ラミンやメランティなどの樹種、テングザルやオランウータンなどの希少種や多種多様な動植物が生息しています。そのオランウータンの問題として、政府がリハビリテーションセンターにいる 1000 頭のオランウータンを 2015 年までに自然に戻そうと計画していることがあります。しかし、中カリマンタンには、オランウータンの生息地が少ないのが現状です。

今まで、森林保全プログラムも多々存在していましたが、失敗を重ねることが多くありました。地域の人たちの共感や支援を得ることができていなかったこと、地域の人々が環境劣化による影響や森林からの経済的恩恵について無知であるということ、政府役人の教育欠如と脆弱な法規制力など複数の理由が挙げられます。オランウータンの保護だけに目を向けるのではなく、森林の保護問題、地域の問題、人々の問題として、包括的に考えていかなければならないといえます。

#### 包括的なアプローチ

FNPF は主に、森林保護、森林の再生、地域コミュニティの活性化、環境教育のプログラムを関連させて活動しています。そして、共に学ぶということを大切にしています。共に木を育て、植え、次世代へつなげていくために子どもたちへの教育もしていかなければならないのです。

(左・TP 公園での植林、/右・ハラパン村の苗づくりプロジェクト)



### ・森林保護

残された森林の保護を続けています。火災が起こりやすい時期に、地域住民とパトロールなどをして見回りを続けています。また、法の規制力を強めるために、政府との交渉も行っています。また、違法者をただ、逮捕するのではなく、彼らの生活も考え、話し合い説得することも大切です。

### ・森林再生

天然林の更新や在来種の植林をしています。TP 公園内の 200ha の土地に、植林してきました。国立公園内だけでなく、地域住民のコミュニティでも植林活動をしています。安く簡単にできるようにすることで、地域住民にも参加しやすいようにしています。

天然林の更新では、通常は伐採後、10～20 年すると、自然に更新されるのですが、私たちの地域では、伐採後に火入れをしてしまうので、自然更新がされません。そのため、植林することで再生を早めています。森林を再生させて、野生生物の居住地を増やしていかなければなりません。

### ・地域コミュニティの活性化

私たちは、森林保全のために地域コミュニティの支援もしています。植林活動が、住民の副収入になると考えています。タンジュン・ハラパン村では、20 名くらいから成るグループを作って活動しています。種集めをして、苗床を作り、その苗を売って、収入にします。この活動で、地域住民は収入を得ることができ、保全活動もできます。そして、金銭面の話だけでなく、これからどのように保全を進めていくのかという話もしていくことができます。

アブラヤシの開発が迫ってきており、住民が自由に使える土地が減っている地域で住民とパトロールをしたり、勉強会をしたりしています。そして、地域にあった持続可能な森林農園、アグロフォレストリーのようなものを作っていくことを目標としています。



## ・社会教育(環境教育)

植林活動、保護活動を通して、若い人々への教育をしていけるような場作りをします。若い人々は私たちがどのような活動をしているか学ぶことができます。学校で教わるような知識だけでなく、伝統的に伝わる昔ながらの知恵というものを教えていきます。地域での活動は、薬などに使える有用な植物や伝統的な知恵、地域の歴史など様々なことを学ぶことができます。みんながオープンマインドで、地域を取り巻く問題を話し合えるようになっていくことを目指しています。一人が引っ張っていくのではなく、人々と共に協力し、地域の支援や理解を得ながら活動していくことが大切だと考えています。

## 森林保護のアプローチ(旧来の手法と包括的な手法の比較)

旧来の手法では、パトロールによる監視や警備しかしていませんでしたが、包括的手法では、それらに加え、苗作り活動などの様々な活動を行います。

旧来は、森林の更新や回復を図っていくことができなかったのですが、包括的手法では、植林をして森林の更新を進めていくことができています。

そして、これは重要なことですが、旧来の手法では、法的規制をメインに据えていましたが、包括的手法では、地域コミュニティと活動することを重視します。

## 森林再生のためのフィールド調査・手法

### ・フィールド調査

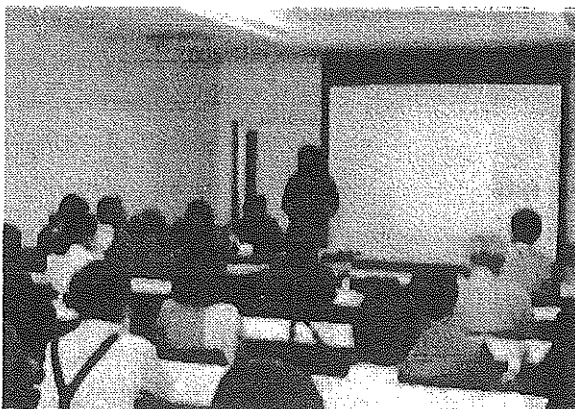
私たちは先住民の知識を基にしています。この知識の中には、本や学校で学べること以外のものがたくさん詰まっています。それらを持った地域住民との活動は、非常にうまく進んでいます。

また、活動を進めていく前に、その地域の歴史や土地の特性を学ぶことは重要です。国立公園内には、4種類の土地の特性があります。泥炭湿地、ヒースなど、特性に合わせて活動を考えるかなければなりません。

### ・再植林への手法

再植林していく上で、緑の回廊を作る、植樹の間隔を考える、移植する、森林が多様な樹種になり高木による影が作られている、早生種を取り入れることなどを考えます。最も重要なことは、シンプルで簡単で安いということです。

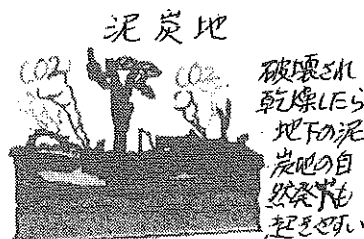
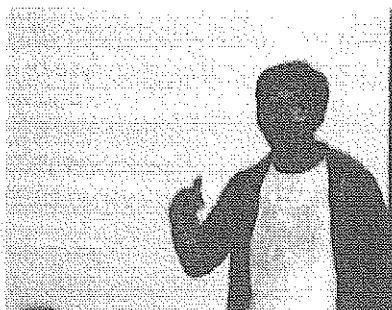
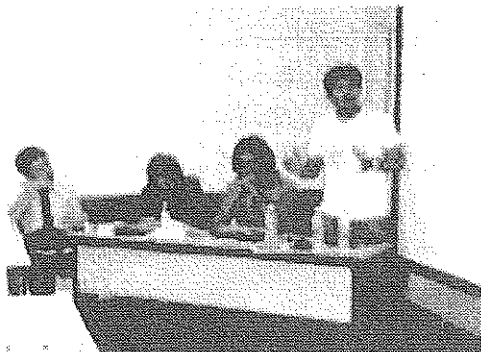
(左・10月17日京都集会以での講演/ 右・大阪集会以での Basuki 氏の講演)





# 《インドネシアにおける CO2 排出削減プログラムと泥炭湿地の保全》

Wetlands International インドネシア イワン・ウイビソノ(ヨヨ)氏



## 泥炭湿地について

泥炭湿地の土壌は通常の土壌とは異なり、有機土壌でできています。有機土壌は、動植物の死骸などが堆積し、何百年、何千年かけて作られます。泥炭湿地は、2本の川に挟まれた湿潤なところに形成されやすくなっています。泥炭湿地の生態系はとても独特で、ここにしかない固有種が多く存在しています。

泥炭湿地は、有機土壌の中に温室効果ガスの一つであるたくさんのCO<sub>2</sub>を含んでおり、そしてなお、吸収するという特異な性質を持っています。手付かずの泥炭湿地林は、温室効果ガスを吸収するという大きな役割を果たしています。そのため、一旦、これが破壊されてしまうと、膨大な量のCO<sub>2</sub>が放出され、その後も吸収されることがなくなってしまうのです。

インドネシアには約2094万haの泥炭湿地が存在しており、そこには約372億トンの炭素量が含まれています。泥炭湿地の深さは場所により異なり、深いところでは20m近くある場所もあります。詳しいデータはインドネシア国際湿地連合というところにもありますし、欲しい方は私たちに尋ねて下さい。

## 泥炭湿地林への脅威

### ・土地利用転換

現在問題になっているアブラヤシ開発だけではなく、木を伐採して様々な用途に土地を利用することも含まれます。

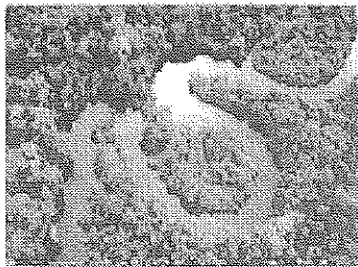
### ・排水路建設

中カリマンタンで行われた旧メガライスプロジェクトで、4000kmに及ぶ巨大な運河が作られました。この運河により、湿潤な泥炭湿地林の水が排水路で吸い出され、土壌の乾燥化を招いています。泥炭湿地は、湿潤でなければならず、乾燥してしまうと、火が付きやすくなってしまいます。

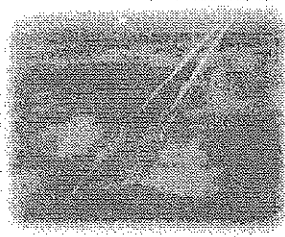
乾燥した土壌になってしまうと火災もおきやすくなります。はじめは、火災は地上で起こるのですが、一旦、火がついてしまうと、地中に存在する炭素にも火が燃え移ってしまいます。地中の火災は、誰にもコントロールすることができず、目に見えないところで起こっているのです。突然に木が倒れたりするなど、非常に対処の難しいものとなります。

### ・乱開発

違法なもの、合法なものがありますが、過剰な開発は脅威となります。伐採した木は、川を使って運ばれるので、そのために運河が作られ、また乾燥を招く結果につながってしまいます。



メガライズ計画



火災



### 排水路への対策

アブラヤシ開発や紙の原材料であるアカシヤを生産するときに、排水路は作られます。そして、その排水路で水を取られ水位が下がることで、炭素が空気と触れ合い酸化され、 $\text{CO}_2$ を排出することを人々は知りません。

排水による乾燥を防止するためには、運河や排水路を堰き止めることが効果的です。私たちがこの活動をするときは、地域の人々と協力し、コミュニティが参加するので、保全と経済的な効果もあります。堰き止めを行うと、水位が上がり、地域の土地が再湿潤化され、乾燥も防止でき、火災も減少させることができ、森林を再生していくことができます。

堰き止めた水路のところに、植林をすれば、自然の堰き止めとなり、森林再生にもつながっていきます。

### アブラヤシ農園開発への戦略

アブラヤシ農園開発は泥炭湿地への最大の脅威となります。また、この開発に伴う森林の皆伐・排水路建設・化学肥料・収穫・輸送などにより、多量の  $\text{CO}_2$  が排出されます。アブラヤシの植林でカーボンオフセットにつながるのと主張もありますが、サイクルによって再び皆伐されるし、野生生物もこの森には住むことができません。

泥炭湿地でのアブラヤシ農園の開発は、天然林の皆伐に始まり、排水路が建設され、土地を乾燥化させるので、 $\text{CO}_2$ が排出されます。次に植林され、25年間成長させますが、泥炭地が乾燥しているので、その間も  $\text{CO}_2$ が排出され続けています。そして、25年経つと、アブラヤシの生産性が落ちるので、再び皆伐からのサイクルを始め、どんどん水位が低下していきます。

私たちは、泥炭湿地での新規のアブラヤシ開発の停止、現存企業への水循環管理の義務付け、監視・評価・法規制、 $\text{CO}_2$  排出削減計画の適応を提案します。

### 劣化した泥炭湿地への解決策～REDD+～

解決策として、まず、伐採の停止が挙げられます。そして、森林の劣化防止があります。伐採の停止と劣化の防止を混同してしまうことがありますが、伐採は森林を破壊し、森林がなくなってしまうこと



で、劣化は、森林は存在するが、地力や潜在力が低下することを言います。次に、植物の再生の促進、森林再生が必要です。これらを合わせて、REDD+と呼んでいます。REDD+は、インドネシア内の NGO や政府で、盛んに討議されています。

また、泥炭湿地では通常と異なり、森林の破壊が止まっても、温室効果ガスの排出は止まりません。なぜなら、泥炭湿地中にある大量の炭素が、乾燥などにより空気とふれ酸化されてしまうからです。そのため、泥炭湿地においては、REDD+に加え、排水路の建設禁止、既存の排水路の堰き止め・水管理、泥炭火災の防止が非常に重要となります。

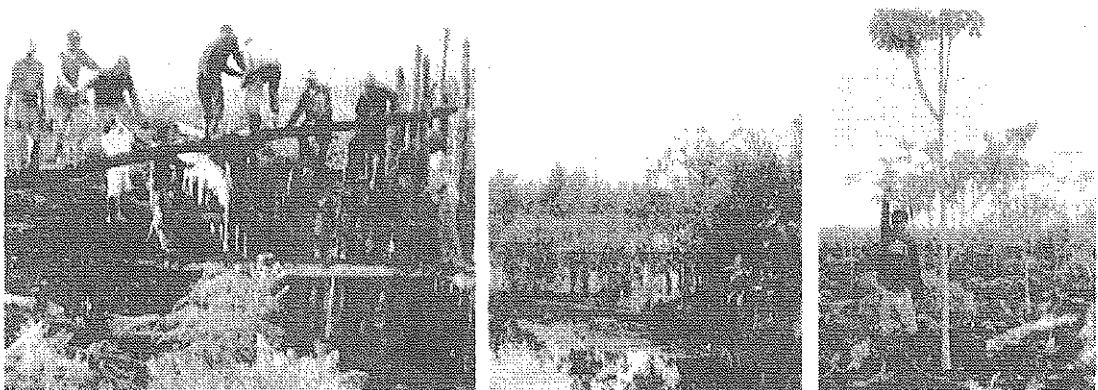
現在、REDD+は国家戦略となっており、他国や NGO との連携・協力をするなどして、積極的に実施されています。政府からの直接的な支援や林業大臣による政治施策からの支援もあり、大きな可能性を持っています。また、企業へただ伐採をする権利を与えるのではなく、生態系復元コンセッションという森林を保全(炭素固定)することで利益を得るといった新たな権利を作ったことも重要な効果があると考えられます。

同じく、問題点や課題も感じています。地域住民がこのことについて無知であること、矛盾した政府の政策などです。インドネシア政府は 26~41%の Co2 排出削減を目標にしていますが、一方で 7%の大きな経済成長も目標としています。また、スマトラ、カリマンタンでは、Co2 排出削減を進めています。パプアニューギニアでは、森林を開き農地への転用を進めています。

そして、Co2 排出についての計測・報告・評価の方法、地方政府の Co2 排出削減にむけての準備や知識を備えることが課題として挙げられます。

### カーボンオフセットプロジェクト

この活動の中に、ARR というものがあります。これは、森林を再生(植林)して、そこで Co2 を吸収するというを目的としています。これは、植林量を計測すれば、吸収した Co2 を計算することができます。簡単に評価もできるので、地域の住民と行うことができますし、企業と連携すれば、企業は CSR として報告することができます。現在、私たちはスペインの企業と提携して、実際にプロジェクトを行っています。森林再生した後に、固定化した炭素量を計算し、その量に応じた金額を企業が、NGO や地域住民へ支払う仕組みになっています。これは、企業・地域住民・NGO など関係する人にとって、プラスになる活動であり、効果的なものであると思います。植林地の管理をする上でも、地域住民の理解と協力を得て、活動することが重要です。



(左・泥炭地復元へ排水路を塞ぐ/ 中・排水路に植林する/ 右・植林後、3年で大きくなった樹/  
写真 by Wetlands International Indonesia Program)

## 初めてのタンジュンハラパン村 \*植林\*

武田 裕希子

9月の中旬。反対する親を必死で説得し、私は初めて日本を出てインドネシアへやって来た。正直言うと不安が無かったわけではない。しかし好奇心がそれを上回っていた。

元々私は環境問題に興味があって大学に入学した。しかし部活動の忙しさにかまけて、環境問題に関わる活動をせずに、気付けば4回生になっていた。

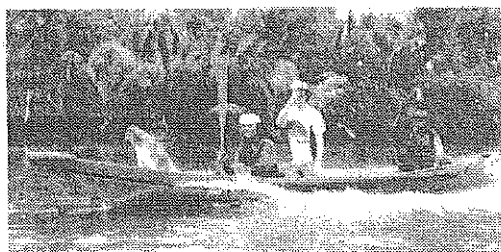
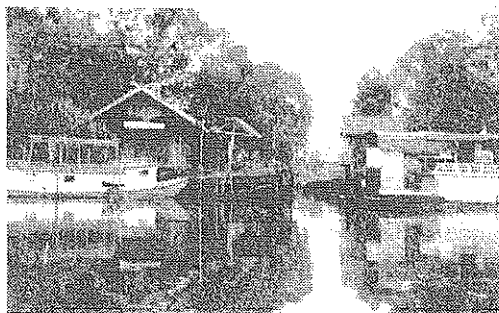
そんな私がHPを頼りにウータンのミーティングに参加したのは7月。

1月のエコツアーでインドネシアに行くことを目標にしていたところ、今回急遽欠員が出たとのことで、声を掛けて頂いた。冊子作りの為アレックスを村に連れて行く事、エコツアーの調整が主な仕事である。自身は、

「世界へ飛び出して、環境問題の実体をこの目で見るんだ！」というやや大げさな想いで胸がいっぱいであった。

今回、村に3泊しかなしいという短い滞在であったのにも関わらず、バスキをはじめとする村の方々や石崎さんのおかげで、私は沢山の経験をさせて頂けた。

その一部である植林について、今日はご報告させて頂くことにしよう。



朝。小さなモーターボートに乗り込み、植林現場へと向かう。バスキの愛犬レンジャーは慣れた足取りで船の先端に座った。

私は川辺の植物や、木の枝を飛び交うテングザル、目に映る全てに大はしゃぎであった。

細い川を上り、船から下りてバスキについて歩いて行く。レンジャーがちょこまかと足をすり抜けて追い抜かすのが可愛らしかった。

道中、バスキは私達に色々な事を教えてくれた。掻き分けているこのグラス（細くまっすぐ伸びた草）→は焼けたり伐採されたりした土地にまず生えるもので、絶滅の危機に瀕しているようだ。

またそうした土地には、白くさらさらとした浜辺にあるような砂が広がっている。

話には聞いていたが、これこそ熱帯雨林が伐採されると復活しにくいと言われる所以である。熱帯雨林の土壌は決して豊かではない。豊かに見える濃い茶色の層は薄く、そのすぐ下にあるのはこうした砂なのである。こんな砂地に一度なってしまうと、自然に森が復活することが難しいのは想像に容易い。





しばらく奥へ進むと、バスキ達が3年前に植えたという、私の背丈程の木々が姿を見せた。とは言っても、バスキに言われなければ全く気付けない。ひょろりと立つその木々は、周囲の草やツタに圧倒されているからだ。

せっかく植えた木々がこうした草木の陰に隠れてしまわぬ様に、彼らは1カ月に1度位の頻度でこの苗木の周りの草木を刈るという。何故1カ月なのか?と尋ねると、「FNPFのメンバーは10人で活動している。この人数ではそれが精一杯なんだよ。」と答えてくれた。

私はここへ来るまで、植林といっても育てた苗を植えるだけであつたら、それはビジネスとして成立するのだろうか?誰でも出来る事にお金を払う人がいるとは思えない。といった不安を抱いていた。けれどバスキの言葉を聞き、そんな考えを抱いていた事を恥ずかしく思った。

何十mも続く草木の生い茂った植林ラインを、刀の様な器具を振り下ろしてひたすら刈って行く。照りつける日の光と飛び散る草木の繊維や綿毛、でこぼこと足を取られる地面。想像以上に大変な仕事である。

エコツアーでは、こういった植えた後の大変さも是非参加者に体験してもらいたいなあ。そうバスキに伝えると、素晴らしい!と言ってくれた。

(けれど私を含め、日本人はこういった作業に不慣れだから、少し体験するだけで十分だよ! (笑)と念を押したので、ツアー参加者にご安心下さい。)



FNPFのメンバーはとても優しい方ばかりで、英語がなかなか伝わらなくても丁寧にゆっくり苗植えの方法を教えて下さった。

私は英語があまり得意でないので、作業に慣れてくるとその楽しさやしんどさを擬音語とテンションの高さで伝えていた。「変な子が来たもんだ。笑」という温かい笑顔に包まれて、私は楽しく初めての植林活動を終えた。



その後昼食をご一緒した時は、インドネシア語の会話帳を片手に、アレックスやバスキに通訳を頼みながらメンバーとお話を楽しんだ。覚えてたの言葉「enak!」[エナツ]で「美味しい!」を連発していると、あちこちから「これをあげよう!」「これも食べてみな!」とおかずを分けて頂いた。たまに辛くて「tidak enak!」「美味しくない!」と叫ぶと、皆大笑いだった。

次号はアブラヤシプランテーションについて書かせて頂く予定...続!

## 【震災後、輸入材等で補完】

東日本大震災が発生後、木質ボード工場はセイホク（宮城県石巻市）、宮古ボード工業（岩手県宮古市）等被災。合板を筆頭にパネル需給は一気にひっ迫も、国内メーカーの操業率引き上げと輸入品で補完。国産材使用の住宅造りの流れはこの数年続き、大手住宅やプレハブ、2×4工法等の分野へ広がる[10月木材ウイークリー]

## 【日本、中国と違法材対策の覚書に調印】

日本政府と中国政府は、8月19日、昨年8月に実質合意に達した「日本国政府と中華人民共和国政府との違法伐採及び関連する貿易への対処と持続可能な森林経営の支持についての協力に関する覚書」の署名を了解した。覚書には、日本側は鹿野農林水産大臣と松本外務大臣、中国側は賈(か)国家林業局長が署名。今回でインドネシアに次ぎ2国目。中国は大丈夫？(資料:林野庁)

## 【アブラヤシ農園はCO2を増加と国立環境研】

アブラヤシを植えると、森が本来ため込むことができた炭素量が30年後に65%減と、国立環境研究所等の分析で判明。アブラヤシは、環境に優しい洗剤やバイオ燃料の原料になるパーム油と栽培面積が急増している。(資料:毎日新聞9/29日)

## 【EU、マレーシアとの木材取引に反発】

2013年1月1日に施行の「違法木材貿易を抑制するEUの木材規制の合意に、EUが認証問題とは無関係の新条件を追加したら、協定書の署名に躊躇」と、マレーシア資源管理・環境第二大臣。「失敗した場合、欧州連合(EU)への木材輸出は、2013年に停止となるだろう。FLEGT(森林法、ガバナンスや貿易)に認証外の要件の追加はダメ」と、サラワク州木材産業開発公社(STIDC)との会合に出席した後、語った。「マレーシア産木材の主買い手のインドは2010年に2億2100万m3を輸入」と。インドはサラワク州の木材生産の56%を占める。(資料:Business Times10/13、Bermana等)

## 【マクドナルド社がRSPOに参加・RSPO News】

マクドナルド社は今年始めに、持続可能な資源から食物を作るという公約を発表し、正式に持続可能なパーム油(RSPO)の円卓会議メンバーとして承認される。最近になって、他3つの米国本社(ウォルマート、菓子会社ハーシー社、金融業シティグループ)は世界50カ国700団体で構成の組織に参加し、RSPOメンバーにと。RSPO自体がCO2の排出削減出来たり、泥炭地破壊を止めるかは？(10/24)

## 【ITTO、持続可能森林経営が10%にアップと】

ITTO(国際熱帯木材機関)のNewsで、2005-10年に向け持続可能な森林経営が5%から10%に改善と。特にEUとアフリカ諸国の「違法材停止・合法材使用協定やアマゾン、インドネシアの違法伐採が55-75%に減少したからか。

(資料:ITTO・10月、英国チャタムハウス報告)

## 【タ・アン Group、豪州タスマニア原生林破壊へ】

JATAN(熱帯林行動ネットワーク)等は、オーストラリア・タスマニア原生林を大破壊はTa Ann(タ・アン)Groupと。同社は密輸でも財力を蓄えたサラワク州首相タイプ氏の親戚が経営。タ社は「エコ木材を標榜」して日本、中国、EUへ販売と新たな伐採権を獲得の狙いと。タスマニア・ヒューオン溪谷環境センターは「現在も続く原生林破壊にお墨付きを与える」と。JATANは57万haの森林から原料供給停止、タ・アン社製品不使用をPR。

## 【玩具大手マテル社、APP社の紙供給の停止】

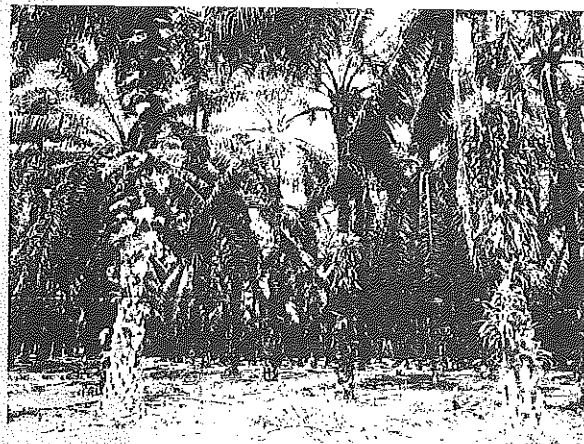
世界一の玩具・米国企業マテル社は、グリーン・ピースからキャンペーンを受け、インドネシア熱帯林破壊を続けるAPP社を、自社の紙調達方針で見直す。マ社は2015年に再生紙や林認証の割合を85%へ。米国は、2008年にLacey(レーシー)法で違法材の罰則規定を定めた。この法案可決を変えるクーバー・ブラックバーン法案が10月上程で、違法材対策の妨げだと。(Mongabay11/5)

## 国立環境研チーム分析

熱帯雨林を伐採しアブラヤシを植林すると、森林が本来ため込むことができた炭素量が30年後で65%減っていたことが、国立環境研究所（茨城県つくば市）などのチームの分析で分かった。減少分は大気中の二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）となって地球温暖化を悪化させた恐れがある。アブラヤシは、環境にやさしい洗剤やバイオ燃料の原料になるパーム油を採ろうと、栽培面積が急増している。消費者の高まるエコ意識が、環境悪化を招くことを示唆する結果として注目される。

【安味伸二】

## 洗剤原料アブラヤシ 植林で熱帯雨林伐採



# エコ商品でCO<sub>2</sub>増

欧州地球科学連合の専門誌バイオジオサイエンスに発表された。マレーシア半島部のパン保護林（約2400ヘクタール）で、アブラヤシ

を9年間で植える。えた30年が経過しても、十数倍にしかならず、これに対し、熱帯

よっては高さは40メートルを超え、チームは現地調査に

植え替えてから約30年たったアブラヤシのプランテーション（マレーシアで昨年11月（国立環境研究所提供）のに対し、同じ期間を経た熱帯雨林では同300ヘクタールもあつたことが分かった。

国連食糧農業機関（FAO）によると、マレーシアの森林面積は90年から07年にかけて120万ヘクタール減少した。一方で、同期間のアブラヤシの植林面積は220万ヘクタール増えている。環境研の安立美奈子特別研究員は「パーム油洗剤などはエコ商品といわれる。しかし、森林の二酸化炭素吸収の観点ではマイナス。地球規模でエコかどうか考えてほしい」と話す。

【佐藤文一、笈田直樹】

事故当時の映像 あれば公開要求

東電に経産相

枝野幸男経済産業相は29日午前の参院予算委員会、東京電力が福島第1原発を常時撮影するカメラを設置していることについて、「（事故）当時の映像があれば当然、公開すべきだ。出さなければ法に基づいて提出を求めると述べ、震災時や爆発時の映像があるのかを東電にたずかえを示した。

東電は1〜4号機の外観を映すカメラを設置し、5月末以降、中継映像をインターネットで配信している。

# 生活潤す「農園」 環境への関心低く



マラッカ海峡に面したインドネシア・スマトラ島中部のリアウ州。ヘリコプターで上空から見下ろすと、緑豊かなプランテーション（大規模農園）が海辺まで続いていた。

「ここは紙パルプの原料のアカシア、あそこはパーム油が取れるアブラヤシ」。世界3位の製紙会社、アジア・パルプ・アンド・ペーパー（APP）の広報担当者は「日本のコピー紙の25%、輸入紙の63%はわが社の製品です」と説明した。パーム油も安価な植物油として、日本で即席めんやせっけんに使われる。

## サッカー場300個分

高温で雨が多いインドネシアには密林（ジャングル）が広がるが、2008年版のギネスブックで、世界で最も速いペースで森林が消失する国という不名誉な認定を受けた。1時間にサッカー場300個分の森林がなくなる計算だ。

開墾が盛んなリアウ州では、特に減少が激しい。世界自然保護基金（WWF）によると、ここ25年でリアウ州の全面積の約4割、九州に匹敵する4万平方キロ。超の森林が失われ、トラやゾウが生存を脅かされているという。

環境保護団体のグリーンピースは、APPを傘下に置く華人系財閥を標的に不買運動を展開。スイスのネスレなど食品大手がパーム油、米小売り大手ウォルマート・ストアーズなどが紙製品の購入停止を次々発表した。

グリーンピースから「製品購入を通じ、森林破壊に加担している」と名指しされた企業は、イメージ悪化を回避するため「法が順守され、持続的に製品が供給されることが確認されるまで購入を控える」と表明するほかなかった。

これに対し、APPの幹部は「地域住民に貧しいまま暮らせと言うのはおかしい」と反発。インドネシア政府が最近、森林減少率を下方修正したとして、ギネスブックは「古いデータに基づいている」と批判する。

## 最大のパーム油生産国

インドネシアは世界最大のパーム油生産国で、紙パルプ生産でも世界8位。リアウ州ではヤシの実や木材を満載したトラックが途切れることなく行き交い、中小企業や個人にも「農園ブーム」が波及し潤っている。

クアンラド村のニナさん(25)は「アブラヤシの栽培でもうけ、車を3台持つ友人もいる」と明かす。1ヘクタール約1200坪（約12坪）で実を買って回る仲買人のリコーさん(35)は「パーム油の将来の需要増は確実」と目を輝かせた。

周辺の州からも人が流入し、開墾は後を絶たない。地元NGO関係者は「農園は拡大し続け、環境問題への関心は薄い」と顔を曇らせた。

(クアンラド 共同)



仲買人が買い集めたアブラヤシの実  
＝6月6日、インドネシア・リアウ州クアンラド村（共同）



マラッカ海峡近くで、プランテーション開発のために造成された集落＝4月5日、インドネシア・スマトラ島リアウ

**森林開墾の影響** 森林が開墾されると、絶滅危惧種を含む野生生物がすみかを失う。農地を整備する際、植物が堆積し炭化した「泥炭地」から水を抜くことが多いため、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）が放出され、森林火災も起きやすくなる。インドネシアのユドヨノ大統領は今年5月、ノルウェーから資金援助を受ける条件として、天然林や泥炭地を農

森に行くなら、この1冊

## 『フィールドガイド・ボルネオ野生動物』

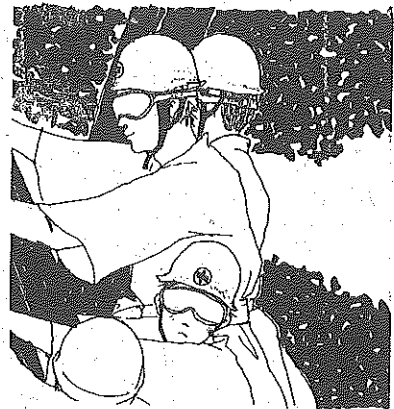
オランウータンの森の紳士録』 講談社ブルーバックス

浅間茂 著 2005年 1,800円+税

「日本に一番近い秘境の動物 153種を、解説付きカラー写真で紹介」とある。代表的な哺乳類から昆虫まで、見分け方、行動など、高校の生物の先生だけに、解説はわかりやすい。著者は、17年間に45回も現地に行ったそうだ。

「コイヌカオフルーツコウモリ」の名前通りのとぼけ顔、泳ぐゾウなど。普通の図鑑より動物の姿が生き生きしている。

熱帯林の生態系や人との関わりも簡単に触れており、「エコツアーを楽しむために」では、ナイトウオークのすすめや、旅の持ち物リストも掲載。



林業に《ゆる〜く》かける青春！

## 『神去なあなあ日常』 三浦しをん 著 徳間書店

2009年 15,000円+税

親の陰謀？で、林業研修生として、山奥の村に住みこむことになった俺。

美人の産地神去村で、チェーンソー片手に山仕事。先輩の鉄拳、命がけの祭り、スギ花粉症。俺は山の人間になれるだろうか・・・。

「まほろ駅前多田便利軒」などで人気の作家が描く「林業小説」。面白く読むうち、ちょっぴり山仕事や林業の問題もわかるかも？。



# HUTAN ACTION SCHEDULE

『共に生きる世界をつくるために一人ひとりができること』

「ワン・ワールド・フェスティバル」

[時] 2012年2月4日(土), 5日(日)

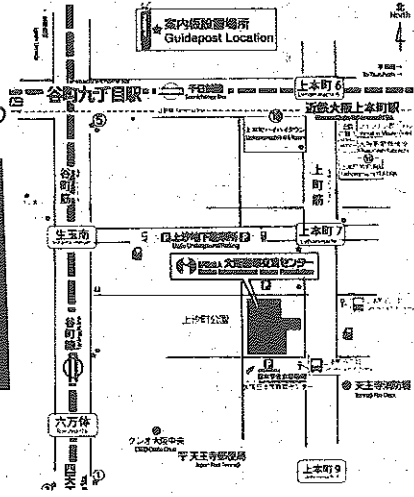
※ 詳しいは、

ワンワールド・フェスティバル  
実行委員会ウェブサイトを  
ごらん下さい。

AM 10:00 ~ PM 5:00

[場] 国際交流センター  
(上本町8丁目)

- 西日本最大規模の国際  
祭りのお祭り「ワンワールド・フェスティバル」で  
19回目を迎える!

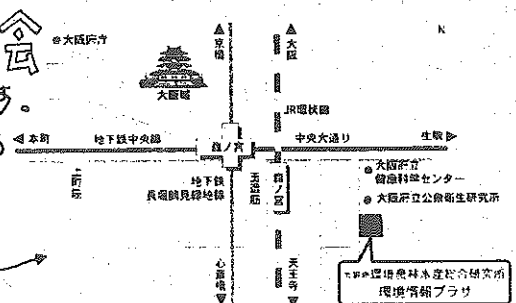


12年度 HUTAN 総会  
です。

[時] '12年2月12日(日) 1:00pm ~ 4:00

[場] 大阪府  
環境情報  
プラザにて

〒537-0025  
大阪市東成区中道1丁目3-62  
tel:06-6972-6215  
fax:06-6972-6216



## ウータン・森と生活を考える会

[OFFICE] 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-6-36  
サクラビル新館308  
「関西市民連合」気付  
Tel.06-6372-1561

<http://www.hutang.jimdo.com>

【一部】300円 【年会費】4000円  
【郵便振替】00930-4-3880



- ◎購読希望の方は郵便振替で申し込み下さるか、又事務所までご連絡下さい。
- ◎ウータン定例会は、毎月、第2、第4火曜日7:00pmより「関西市民連合」事務所にて行っております。